



剛吼

No.467
2023.8.26

国際会長テーマ 『We Serve』



2023. 7. 5(水) 茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校で行われた薬物乱用防止講話会

- 国際会長メッセージ
『世界を変える』
- 地区ガバナーズローガン
『そなえよつねに』
- 333-E地区 アクティビティスローガン
『地域に発信! 我々の存在と活動 そして We serve』
- クラブスローガン
『未来につなげよう 奉仕の心』
 - ①メンバー全員参加による新規会員増強で仲間の輪を拡大しよう
 - ②クラブ内交流を図り、意見や情報交換をし、絆を深めよう
 - ③自分の出来る事から奉仕活動をしていこう

Contents

薬物乱用防止教室	L 小河原隆次 … 2
常北校生徒から届いた感想文 ……………	3
常磐大学献血会	
事業委員会 委員長 上久保博隆 … 3	
7月ゴルフ部会取り切り戦優勝について	
小野智佳子 … 4	
私が思う尊敬する人物像 L 佐藤 昌一 … 4	



薬物乱用防止の講話に耳を傾ける県立水戸桜ノ牧高常北校の生徒たち＝城里町春園

水戸桜ノ牧高常北校で講話
 城里町春園の県立水戸桜ノ牧高常北校(秋山克巳校長、生徒92人)で5日、全校生を対象に「薬物乱用防止講話」が開かれた。講師の水戸南ライオンズクラブの小河原隆次(48)が、薬物の依存性の怖さを説明しながら、「一度やると戻れなくなる。だから絶対に手を出さないで」と訴えた。

薬物乱用、怖さ呼びかけ

小河原さんは、「薬物すなわち悪」ではなく、あくまで使う側の節度の問題ではあると前置き。その上で、「反復して使用しているうちに、心も体もこのようになってしまふ」ことが薬物依存の怖さと述べた。

大麻や覚せい剤など古くからある麻薬に加え、医薬品の成分を少し変えただけのスマートドラッグが、「頭がすっきりする」などの触れ込みで受験生の間にも広まっていると指摘。「初めはよくても体に作用し、やめたくてもやめられなくなってしまう」と警鐘を鳴らした。

スポーツ選手とドーピングの問題にも触れ、「風邪薬でもドーピングに引っかけられる。医薬品を使用する場合は、目的、量、頻度のルールを守らないと薬物の乱用になってしまう」と指摘した。

講話を聞いて、「3年の五味田ゆあさん(18)は、「身近な所に違法薬物に触れる危険があるかもしれないと聞いて怖くなった。誘われても絶対断るつもりだ」と述べた。(佐川友一)

2023年 7 月 18 日(火) 茨城新聞掲載



川島会長に届いたお礼状

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校
薬物乱用防止教室



L 小河原 隆 次

(小河原セメント工業㈱ 代表取締役)

2023年 7 月 5 日(水)14時より、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校全校生徒92名を対象に薬物乱用防止講話会を行い、当クラブでは、L 上久保、L 根本(忠)、L 斉藤、講師としてL 小河原が参加した。今回の講演は『様々な依存から「大切な自分を守るために…』』の主題より、依存症を中心に薬物依存、アルコール依存、ニコチン依存、その他の様々な依存が身近にあることを中心に、スマートドラッグやドーピング等も題材に正しい薬物との接し方や、耐性とフラッシュバックによる怖さ、薬物乱用における社会的影響、県内の薬物事犯の検挙状況等を講演した。薬物乱用防止教室での講師をする中で、大変なことは資料作りと時間配分だと最近感じている。資料は(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが企画制作しているDVDをライオンズで毎年主催している薬物乱用防止教育講師認定証の更新(3年に1度)のために受講する薬物乱用防止教育認定講師養成講座を受講した時に配布されているが、DVDを中心に講演を行うとDVDのナレーション任せとなり、本当に伝えたいことや学生が興味を持って話を聞いてくれるような講演ができず、何を伝えたいかを考えて、毎年自分で資料を作成し講演に使用し

ている。この自分で資料を作成して講演を行おうと思ったのには、キッカケがあった。2016年10月29日に認定証の更新のために受講した養成講座の中で、実践講座ライオンズクラブにおける薬物乱用防止活動と題し東京葛西ライオンズクラブのL 館親光の模擬講演で使用された資料と講演内容であった。現在、様々な情報を検索する中で、薬物に侵された方々への見方や、薬物への知識が増え自分の言葉で伝えることで内容も良くなっていると思っている。今後の課題として今回のように全校生徒が対象の場合、内容を三部作として3年間の中で薬物乱用に係る様々な講演ができるようにすることを課題と考えている。

最後に、私の講演のまとめには、必ず『自分を守るために…』という内容で、もしあなたが依存症になってしまい人生が苦しいものになってしまった時のおまじないとして『心が変われば、行動が変わる、行動⇒習慣⇒人格⇒環境⇒運命⇒運命が変われば人生が変わる。』これはヒンドゥー教の教えを一部アレンジしたものだが、人生なんか変わらないと思って未来を諦めかけている方がもし、身の回りにいればぜひ、耳を傾けてほしい言葉なので最後の締めの前に皆さんに贈るようにしている。最後に、これから薬物乱用防止教室の講師をやろうと思う方がいたら、自分の言葉で伝え、薬物依存の方への偏見を持たず、依存は全ての人が陥るものであり、用法、用量、用途を間違わないことが大切であるということを理解し講演を行うことをお勧めします。

常北校生徒から届いた感想文

1 学年

今日の薬物乱用防止教室授業の話聞いて薬物の危険性や依存症の種類と分類などについて知ることができました。タバコの吸いすぎによって肺炎や呼吸器疾患を引き起こす原因となったり、アルコールのとりすぎによってアルコール依存症となり肝臓病、糖尿病やうつ病などになってしまう危険性を知りました。なので、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を意識しながら生活していきたいと思えます。

2 学年

依存症というと、薬物のイメージが強かったのですが、それだけでなくアルコールやタバコ、ゲームなど自分の身近にあるものも含まれていることを改めて認識しました。最近は年齢を問わずSNSやインターネットを使用する時代になったので、いつどこで自分がそういった危険にあうかわかりません。なので事前に危険予測・回避がしっかりとできるような意識を持っていきたいです。

3 学年

私たちのために薬物乱用防止教室講話を開いてくださり、ありがとうございます。薬物には様々な種類があることを知りました。薬物を乱用することで家族や友人に迷惑をかけてしまうことは、絶対にしてはいけなと強く感じました。他にも依存症やフラッシュバック、ドーピングなど将来や身体にも影響することがあるので、講話で聞いたことは絶対に忘れません。



熱心に講話に耳を傾ける生徒たち

申込者へのお礼の品すべて使い切る

常磐大学献血会



事業委員会

委員長 上久保 博 隆

(株式会社建築研究室 代表取締役)

2023年7月12日(水)、常磐大学構内において献血会が開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、頒布品を使用しての献血協力の呼びかけが再開できることになっていましたが、あまりの猛暑に屋外での活動は控えることとなり、残念ながらコロナ禍中と同様の活動内容となりました。献血実施の結果としては、ファミリーマートの関係者、約40名が申込みをしていただいたおかげで、申込者70名、内実施者が61名となりました。毎回70名分の申込者へのお礼の品を用意していますが、すべて使い切ったのは常磐大学構内で献血会を開催するようになってからは初めてだと思えます。ファミリーマート関係者の皆様へ感謝で

す。次回も用意した品が使い切れるぐらいの申込者が集まると期待したいです。最後になりますが、猛暑の中、参加していただいたクラブメンバーの皆様、有り難うございました。今回、参加が叶わなかったメンバーの皆様、次回の参加をお待ちしております。



献血会の準備をするメンバー

落ち込む暇もないプレーができた 7月ゴルフ部会取り切り戦優勝について

小野 智佳子

(L小野久之令夫人)

最初に小祝さん、上久保さん、ケガが完治されて、またゴルフで一緒にできますこと、大変嬉しく思っております。

毎年恒例の取り切り戦!! 今年は7月9日(日)に扶桑カントリー倶楽部で行われました。朝から無風でまとわりつくような湿気…楽しいはずのゴルフが…苦行状態でしたが誰一人体調を崩すことがなかったのも幸いでした。

私ごとになりますが、当日は女性のみ賑やかで落ち込む暇もないプレーができたこと、馬券で

は毎回皆さんを裏切ってまで守ってきたHCに助けられたこと、上位入賞を考える…どこではない暑さに悩まされたこと等が相乗効果となり、立派なトロフィーを頂くことができました。ありがとうございました。

ただ、一つ不安がありまして…去年は準優勝、今年は優勝となると来年は…? 怖い…。



院 長 小 野 久 之
医 学 博 士

日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医
日本医師会認定産業医

〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町2576-6
TEL 029-240-0810 FAX 029-240-0820
携帯電話 090-3233-7450 E-mail hisaono@d8.dion.ne.jp
http://www.myclinic.ne.jp/onoclinic/pc/

私が思う尊敬する人物像

L佐藤 昌一

(南日之出屋 代表取締役)

水戸市東原の水戸一中に隣接する古びたコンクリートのプールが気になってました。母親に聞くと旧制水戸高等学校の跡地であることが分かりました。

それを創った人物こそ、茨城県が生んだ実業家内田信也(1880-1971)です。麻生町に生まれ5歳の時、父母とともに東京に移り、麻布中学卒業後、東京高等商業学校(現一橋大学)に入学した。大学卒業後三井物産(株)に入社。神戸支店船舶部勤務となる。転機は大正3年にやってきた。三井物産を辞め、「内田汽船株式会社」を設立したのである。第一次世界大戦勃発による船舶需要を見込んでの決断だった。船の所有者と傭船契約を結び、必要な人に船を貸すことで利益を得る事業を始めた。これが当たった。造船事業にも乗り出し、短期間に巨額の富を築いた。そんな最中茨城県の力石雄一郎知事(当時)が神戸市の内田邸を

訪れ、知事は「茨城県民を代表して伺った」と切り出した。「力石君のその時の話は、是非百萬圓の寄付をして水戸高等学校を建ててくれというのであったが、僕はその場で快く承諾した」と、政府は当時、高等学校増設のため法令を改正、水戸にも高等学校建設の計画を進めた。しかし、建設費の100万円うち60万円の確保が難しかったのである。

内田の快諾を得て大正8年(1919)に着工し200人の新入生が通い始め校舎は開校から3年を経て完成した。内田は代議士となり第5次吉田内閣の農林大臣を務めた。また中曾根内閣官房長官の後藤田正晴等歴史に残る卒業生を輩出している。内田信也の努力ときっぷの良さにはさすがに思う。

今は北水会グループの出入口付近が旧制水戸高等学校の碑が建っているが、経済人内田信也の名が入っておらず地元人としてはさびしく思うし、わがまちが生んだ偉人を伝えていきたい。

編集 雑感

◆まだまだ猛暑日が続きそうで水筒が手放せません。台風や自然災害が心配なので、もしものときのための防災セットを備えておくことも大切ですね。(L谷島)

ライオンズの誓い

われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する



剛吼

第467号

●発行 水戸南ライオンズクラブ PR・ライオンズ情報委員会
●発行日 2023年8月26日(毎月第二例会日)
●事務局 〒310-0031 水戸市大工町3-5-4 コウリュウビル3F TEL.226-9250 FAX.226-9257
E-mail minami-lions@crocus.ocn.ne.jp
ホームページ http://mito-minamilions.sakura.ne.jp/

